

グループホームさくらがおか

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月12日

【評価実施概要】

事業所番号	0970102521		
法人名	社団医療法人依田会		
事業所名	グループホームさくらがおか		
所在地	栃木県宇都宮市桜2-3-3 (電話) 028-623-6899		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年4月8日	評価確定日	平成20年6月12日

【情報提供票より】(平成20年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日、平成16年3月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	8 人	常勤6人(うち兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算6.1人	
	10 人	常勤9人(うち兼務1人), 非常勤1人, 常勤換算6.6人	
	9 人	常勤7人, 非常勤2人, 常勤換算6.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4階建ての2~4階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	88,000 円	その他の経費(月額)	理美容代、おむつ代一実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(308,000円)	有りの場合償却の有無	有(1年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,600 円	

(4) 利用者の概要(平成20年3月10日現在)

利用者人数	27 名	男性	名	女性	27 名
要介護1	9 名	要介護2	8 名		
要介護3	10 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	67 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	社団医療法人依田会さくらがおかクリニック、ささや歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>社団医療法人依田会が設置運営するグループホームさくらがおかは、地域貢献、入居者が安心して充実した生活を送れるホームを目指して全国数箇所の事業所を廻り、良い所を取り入れ、こだわりを持って建設された。「ふれあい、対話、優しさ」を運営理念とし、広い共有空間における居場所が確保され、木のぬくもりのあるホームである。玄関には内掛けが飾られ、和の風情を醸し出している。近隣には、学校や美術館、銀行等があり外出には便利な地域に位置している。内部、外部研修に力をいれており、認知症介護指導者研修修了者であるホーム長が指導者同士の会議等に定期的に参加したりしながら、認知症介護の向上に心掛けている。今後、当ホームにて地域の方に対する介護教室を実地することも検討するなど、地域への貢献も考えているホームである。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では要改善点は特になかったが、評価の機会を日頃のケアを振り返る良いきっかけと捉え、改善すべき箇所は意識して取り組むなど実践につないでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価にあたっては、評価基準を全職員に配布し、各ユニットのリーダーを中心に実施して管理者が記入した。今回の取り組みが日頃のケアを振り返る良いきっかけとなり改善すべき箇所は意識して取り組むよう努めている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族代表、地域包括支援センター職員、自治会長に参加してもらっている。会議ではホームの報告とともに、質問、意見、要望等を出してもらい、双方向的会議となるよう取り組んでいる。開催は2ヶ月に1回奇数月の第3月曜としている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時には健康状態や日頃の暮らしぶりを報告している。月1回広報誌(さくらだより)を送付したり、預かり金の出納状況を報告したりしている。重要事項説明書にホームの苦情相談受付窓口、市、国保連の連絡先を明記している。今まで苦情はないが、意見・要望があった時には課題を検討しながら質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して、回覧板等もまわってくる。老人会や地域の伝統行事などの活動があまりないが、近隣に住む一人暮らしの高齢者宅に安否確認に訪問したり昼食に誘う試み等をしている。今後地域の家族を対象に介護講習会を実施することを検討している。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体が医療機関ということもあり、開設当初から日々地域での活動（買い物、散歩、行動）を通してその人らしい暮らしができるような支援に努めてきた。地域の人々との関わりも踏まえて「ふれあい、対話、やさしさ」という理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時には、職員全員で理念を唱和している。また、理念を踏まえた毎月の目標を各ユニットでたてて、日々のサービス提供、ケアに活かすようにしている。月1回のカンファレンスでもホーム長と職員で理念等について話し合い、理念に立ち返り考える機会をつくって、日々実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。回覧板等はまわってくるが老人会や地域の伝統行事などの活動は少ない。昨年小学校の運動会に数名が参加した。また、近隣に住む一人暮らしの高齢者の安否を確認に訪問したり昼食に誘う試み等をしている。	○	地域に積極的に働きかけ関係をつくってきている。ホームの理念は地域の中で福祉の拠点になることであり、近所の方が肩ひじ張らずに気軽に訪れるホームづくりを目指している。今後も少しずつ地域の方々との交流を深めていくことを期待したい。また、地域の家族を対象に介護講習会を実施したり、伝統行事を企画したりしてホームを開放していくことも考えているので期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価、自己評価にあたっては、評価基準を全職員に配布し、各ユニットのリーダーを中心に実施して管理者がまとめ、記入した。評価の機会を日頃のケアを振り返る良いきっかけと捉え、改善すべき個所は意識して取り組むなど実践につながっている。		

グループホームさくらがおか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、地域包括支援センター職員、自治会長に参加してもらっている。会議ではホームの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。会議の開催回数は2ヶ月に1回奇数月、第3月曜日と定めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が窓口となり、市の担当者と密に連携を取ったり実地指導による助言等を受けたりしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に健康状態や日頃の暮らしぶりを報告している。月1回、広報誌「さくらだより」を家族に送付し、金銭出納帳も個人別に作成し、毎月家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情相談受付窓口、市、国保連の連絡先を明記している。家族等から要望があったときはその都度対応している。今まで苦情はないが、意見・要望があった時には課題を検討しながら質の向上に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当ホームは3ユニットを1つのホームとして位置づけており、全職員に入居者の顔を知ってもらうという意味でも、2名程度の異動を行っている。異動に関しては入居者へのダメージを最少にするための検討をしている。		

グループホームさくらがおか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会を積極的に活用し、年間計画をたてて内部研修を積極的に実施している。研修参加後は報告書の作成、他職員への伝達など研修内容の共有に努めている。また月1回の全体カンファレンスには運営者、管理者も参加し、勉強会を実施したりして、働きながらトレーニングを重ねている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長が認知症介護指導者研修を修了しており、指導者同士の会議等に積極的に参加して、認知症の介護の質の向上を心掛けている。	○	行事を通じた他事業所との交流なども考えている。地域の同業者との交流から、職員の勉強会や相互訪問など、お互いに質の向上に取り組んでいけるような関係づくりをしていくことにも期待したい。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込み時、本人、家族の置かれている状況、不安や心配ごとを十分時間をかけて聴き、納得のいくまで相談にのり、本人、家族にとって何が一番必要かを判断しながら対応している。まずホームに来てもらい雰囲気をしながら体験してもらっている。入居後は全職員が記録等からその人を知り、家族と相談しながら関わりを多く持ち、ホームでの生活に徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意な場面（買い物、料理、掃除、趣味）等と一緒にやる場面をつくっている。昼食の調理や盛り付けなどを職員と一緒にやっている姿が見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一部センター方式のアセスメント様式を使いながら本人のこれまでの生活や気持ちを把握するように努めている。入居者の希望や要望にそえるよう配慮し、意思表示が困難な方に対しては、日々の行動や表情からくみ取り把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメント様式を用いて本人、家族の希望を踏まえながら毎月のカンファレンスで職員の意見、気づき、アイデアも加えながら介護計画を作成している。フロア（ユニット）の座席交換をしたりして入居者主体の暮らしを反映しながら支援している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月に1回であるが新しく入居した方は3ヶ月に1回の見直しをしている。また、状態が変化した場合は随時見直しをしている。ケアは日常的に速やかに変更しているので現状に即した対応を検討しているが、より迅速に介護計画に反映させたいと考えている。	○	ケアの効果をより上げていくという意味でも、日常的な変更を計画に反映させる工夫をしながら、今後も本人・家族、職員、関係者等が情報を共有しやすい環境づくりを進めていくことに期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。入居者家族、ボランティア、地域包括支援センターなどの協力も得ながら柔軟な支援に努めている。		

グループホームさくらがおか


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認している。協力医療機関である同法人のクリニックを選択している人もいるが他科受診の際は家族と連携して適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にターミナルケアについて本人、家族にとってどうあったら良いのか意向を確認している。当ホームが対応しうる最大の支援方法を踏まえて方針を職員間で話し合い、かかりつけ医とも相談しながらできること・できないことの見極めを行っている。以前に看取りをしているが、入居者が不安感を抱かないように配慮を重ねながら対応した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	目立たずさり気ない言葉や対応に配慮している。距離感が離れすぎない言葉づかいなど、一人ひとりのプライドを尊重し、プライバシーに配慮した支援をしている。記録は鍵付きのロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースにそって見守りながら、個人個人のその日したいことを把握し、入居者が主人公となって暮らせるよう支援している。訪問時も、散歩に出る方、テレビを見る方と入居者それぞれが思い思いに過ごしていた。		

グループホームさくらがおか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、調理、食器並べ、盛り付け、配膳、片付けなど職員と一緒に進んでいた。また、食材は入居者と毎日買物に行き、好みの物を購入し提供している。各階ごとに食材が異なっている。職員も一緒に同じ物を食しながら楽しそうに話していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	9:00～16:30の時間帯で入居者一人ひとりの好きな時間帯に入浴できるよう支援している。毎日入浴する方もいるが、少なくとも週2回入浴できるように勧めている。入浴の苦手な方には無理強いをせず、体重測定に誘いながら入浴してもらう工夫をしたり、シャワー浴の支援をしている。夜間に入浴したい方には19:00～20:00の時間帯で支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物たたみ、調理、絵描き、くもん学習、カラオケ、ダンスなど入居者の生活習慣や生活歴、エピソードに配慮して入居者一人ひとりに合わせて役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として買い物や散歩などの外出の機会をつくっている。家族の協力を得ながら、墓参り、外食の提供も実施している。	○	フロア（ユニット）全体の遠出や外出は実施しているが、今後、個別の支援（入居者の馴染みの場所、個別性の高い特別な場所など）を充実させていくことに期待したい。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの玄関に余り気にならない程度の優しい音のする鈴をつけ、入居者の外出傾向を把握し、職員同士連携をとって、気配り、目配りを行っている。日中は玄関に鍵を掛けていない。夜間は防犯のために鍵を掛けている。		

グループホームさくらがおか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携により、年2回の避難訓練と年1回の脱出袋を使っての避難訓練を実施している。またスプリンクラーも設置している。消防署との連携や業者の協力により、定期的に設備等の点検・確認を実施している。	○	非常用食料、備品等を準備しておくことなども検討していくこととしているので期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好を把握し、献立にとりいれながらカロリー計算された食事の提供をしている。水分摂取量を確認し、また入居者の体調に配慮しながら、飲み物の種類も工夫したりして十分な水分摂取ができるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりが感じられる共有空間には五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。畳の間があり、また所々に椅子が設置されて入居者にとって使いやすい配置や馴染みの物を取り入れた設えになっている。玄関前には和の風情を醸し出した内掛けが掲げてあり、入居者達が羽織った写真が飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や寝具、生活用品などが持ち込まれ、その人らしい居室づくりの支援がされている。居室のドアと居室前の暖簾が同色色になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。